



目 次

変遷する図書館像・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1	トピックス・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9
図書館の新しいサービス・・・・・・・・・・	4	本学関係教官著作物寄贈図書・・・・・・・・	10
中四国地区大学図書館協議会総会報告・・	6		
平成 16 年度閲覧統計・・・・・・・・・・	8		

変遷する図書館像

山口大学図書館副館長(工学部図書館担当) 福永 公壽

今年 4 月の新聞の投書欄に 20 歳の熊本市の大学生がオーストラリアの大学に短期留学し、現地大学の設備の充実度に感心し、最善の設備と環境を与え、勉学面は勿論生活、エンタテインメントもトータルに学生生活を応援していこうとするオーストラリアの教育政策を垣間見、日本はまだ発展途上国だという思いをもったと書かれていました。其中で我々の属する学術情報機構に関する部分を取りあげてみますと「図書館は一つのビルのように、パソコン室はカフェを併設し、沢山のパソコンを 24 時間使える環境を整えている」とあります。短い文章ながら我々の目指している図書館像に近いからでしょうか、ずっとこの記述が記憶に新しく留まっています。

さて、種々雑多な人々が利用する公立図書館でさえ、要求されるサービス内容の変遷に

より管理運営を民間に委託する所がでていた昨今、サービス内容が教育と研究の補助という比較的単純明白な大学図書館にあっても、本報 24 巻 No. 1 (2003 年) に副館長 (医学部図書館担当) の芳原達也教授が「これからの図書館のあり方」と題して既にお書きになっているように、社会のニーズに対応すべく変遷が必要です。実際、先輩及び現学術情報機構教職員の方々の先見の明と並々ならぬご尽力により、着実にその変遷はなされつつあると私は体感しております。

本稿では今まで図書館にサービスを受ける側にいた立場でそれらの一端に触れ、また、今まであまり触れられていない図書館の科学的環境面についての願望 (?) について述べさせていただきます。

昨年 4 月始めに日本食品科学工学会の和文誌へ「豆腐製造における各種凝固剤の特性」

という論文を投稿しました。地元企業との共同研究の成果の一部を公開しようとするものです。今まで、全く書いたことのない食品化学分野の論文ですし、実際に実験した学生達は既に卒業していますので、明らかに文献調査不足の緒言を書いて見切り発車で投稿しました。案の定、約2ヶ月後、「著者のように全ての凝固剤を一気に調べた例はないが、2, 3種類の凝固剤の特性を扱った論文は沢山あります。文献検索を行い新しい論文も含めて引用すべきです」というレフリーの審査意見が来ました。昨年は学科の就職担当とA0入試委員で多忙でしたので、ようやく6月終わりの夜にScifinder Scholar(SFS)で「coagulation of tofu」で検索しました。ただちに16の文献が見つかりアブストラクト内容から判断し、実際読むべき論文で工学部図書館に冊子体として或は電子ジャーナルとしてあるものはコピーし、無い物は文献複写依頼サービスで入手しました。それらの中には休日、24時間開館サービスの恩恵を受けたものもあります。8月上旬に修正原稿を送り、10月中旬に掲載可になり、今年2月中旬に校正があり、52巻3月号に掲載されました。

現在では自分がレフリーになった場合SFSで、その投稿論文の研究の現状がきちんと把握されているかチェックすることにしてい



Scopus 講習会

ます。また、「ゆず」の入力時にも重宝しています。自分が著者でありながら変な話ですが、外国雑誌は何月何日に発行されたのかは論文別刷りがあっても判らないのがほとんどです。SFSで著者名で検索すると新しい発行順にリストアップされ、発行年月も調べることができるからです。一昔前に工学部図書館の閲覧室で、分厚いケミカルアブストラクト(CA)の冊子を何十冊も引きまくって悪戦苦闘して文献調査をしていた頃を思うと、今の文献調査は全学的に導入されているデータベースとネットのおかげで研究室にいながら好きな時間に来て、しかも、早くて機能的で、本当に夢のようです。これでどんどん論文が出せないはずはないのですが、論文を書くまとまった時間がとれないのが残念です。

データベースといえば、最近、雑誌のレベルを評価するインパクト・ファクター(ちなみに最高といわれるNatureの今年の値は30.979)を知ることができるものもあり、大学によっては博士学位論文の審査や教員の論文業績の評価にその値を用いると聞いています。

現在、本学理系学部では大学院教育の強化を図ろうとしています。これから更に研究中心となり、図書館の保有するデータベースの一層の充実が求められ、また、より多くの領域の先鋭化された専門雑誌を電子媒体として揃えることが必要になりますが、これら学術情報基盤資料費の値上がりのため予算面は厳しい状態にあります。図書館ではこれを機会に今ある基盤資料の見直しを行って対処しようと考えています。関係教職員のご理解とご協力をお願いする次第です。

それから今年5月の岡本健一現特命教授の退官記念同窓会の折に、現在京都工繊大の板谷明教授が、お二人が山口大学工学部化学工学科時代に共著で出された「フェノールの酸化チタンによる光分解」の論文の引用数が世



工学部雑誌書庫

界のトップクラスにランクされているのをデータベースで知って驚いていると話されていました。このことはこの前の工学部図書館で開催された SCOPUS の検索講習会でも論文の引用頻度の検索で例示されました。今でこそ酸化チタン光触媒は埃や汚れの分解力に優れていることがわかり、色々実用されているのですが、その先駆的な論文が山口大学工学部の教員によって書かれていたことを喜んだのと同時に、はたと思い立ったのが酸化チタン入りボードやインテリアの図書館閲覧室や書庫、とくに古い冊子のある書庫への設置です。それは今年2月、インフルエンザに罹って図書館の書庫で雑誌をさがす時に舞い上がった埃でひどく咳き込んで困ったことや、閲覧室では冬季には誰か必ず風邪をひいている人がいて連鎖的に多くの人がかき込んでしまう現象をよく目にしたからです。酸化チタンは蛍光灯や窓越しの光だけでも十分触媒作用を及ぼしますので図書館の空間をクリーンな環境に保てると思います。ただ、このグッズも市販品は価格が高いのが欠点ですが、ブックスタンド形式のものはまだ作られていないので、木越みち学術情報員が本報 69 巻 No. 3、p. 5 (2003 年)で紹介されているハワイ大学アノマ校図書館のように、工学部図書館に図書メンテナンス工房を設置して、そこで研究を重ねて自前で作

り、そして山口大学発として世界中にこの図書環境浄化グッズを広めていくようなことを夢見ています。

学術情報の紙媒体から電子媒体への移行は余儀ないこととはいえ、教育・研究用の単行本や資料、電子媒体への移行前の学術雑誌などの蔵書のラインアップも大学図書館では無視できません。これらの蔵書が既存の有形のスペースに収められ、更にもうその上にスケルトンの電子媒体の収められたスペースがあるとイメージしますと、今の我々の図書館の建物も一つの素晴らしい大きなビルのように見えてきますが、何時の日か現実に、今、横並びになっている事務室、情報ラウンジ、開架図書室兼閲覧室、雑誌書庫等がビルの各階に配置され、さらに図書修理室兼研究所、カフェ室などの階を付属した図書館を見たいものです。

(ふくなが きみとし)



図書館の新しいサービス

ー図書館システム更新からー

●図書館システム概要

平成 17 年 4 月、図書館システムをリニューアルしました。システム名は“LICSU-Web”といい、従来のシステムデータ資産を継承するとともに、よりデータを利用しやすいシステムに衣替えを行いました。

システムの第一の特徴は、サーバのデータベースを国際符号化集合（UCS）にしたことです。これにより、図書及び雑誌の目録情報が中国語・韓国語等の多言語対応となり、多言語による入力・編集並びに表示が可能となりました。次に、蔵書検索（OPAC）では、研究室貸出資料について、従来“長期貸出中”のみであった表示が、学内のパソコンからの検索では、学部または学科までの所蔵先が確認できるようになりました。さらに、検索結果を自分にメール送信する機能も追加され、より利便性の高い環境となりました。従来からの文献複写や購入依頼等の Web サービスは継続して利用できます。

これら Web サービスの背景には、メディア基盤センターが提供する一元的認証方式との連携があります。認証方式の統一により、学生証や一般利用者用のカード利用を維持しつつ、本年度より教職員等の名札として導入・配布されている IC カードでの資料の貸出も可能となりました。IC カードでの貸出では、磁気カードやバーコードの読取と比較して、読取エラーの減少ならびに処理速度の向上が図られました。また、図書館システムのサーバ等の主要機器をメディア基盤センター内サーバ室へ集中設置を行ったため、停電等のトラブルが起きた場合でも、サービスへの影響範囲を最小限に留める構成にしました。

●図書館の新しいサービスの試み

これまで図書館では、Web による文献複写申込みや図書購入依頼並びに貸出資料の照会及び予約資料の照会など、システムのリプレースの都度、新機能を追加し、利用者サービスの改善・向上を図ってきました。今回のリプレースでは、新たに次のサービスを開始いたします。

1) MyLibrary

図書館サービス、資料・資源・検索ツールなどへのネットワーク上のアクセスポイントを集約した図書館ポータルページを、各自で作成するツールで、

- ・個人の図書の貸出予約状況
 - ・個人の文献複写依頼状況
 - ・よく使う電子ジャーナル集
 - ・よく使うネットワーク情報資源リンク集
- などを、自分で使いやすいようにカスタマイズ、レイアウトしたページを作成する事ができます。

利用には認証が必要になりますが、山口大学公式メールアドレスをお持ちの方は、申請等の特別な手続きは必要ありません。

<http://opac.lib.yamaguchi-u.ac.jp/mylibrary-html/>



図 1. MyLibrary

2) 山口大学学術機関リポジトリシステム

リポジトリ (repository) とは倉庫、貯蔵庫、宝庫などを表す言葉で、学術機関リポジトリとはその機関 (大学等) で生産された学術研究成果 (論文、報告書等) を電子的な形態で、蓄積・保存し、学内外に発信する為の保存書庫で、多くの場合、誰でも無料で読めるように公開する (オープンアクセス) ことが原則となっています。その目的は、学術研究活動に必要な情報のオープンアクセス化促進、そして学術コミュニケーションの改善ですが、研究評価の基礎資料としても有用です。効果としては、大学の教育・研究活動成果情報の発信機能の強化、社会へのアカウントビリティの遂行、さらには大学のブランディングへの寄与が期待されます。現在、このシステムの公開に向け、資料の収集方針や組織体制を明確にするための作業を行っています。本年度中に試験運用 (公開) することを目標にしています。

●蔵書検索 (OPAC) の新しい機能

サーバリプレースにともない、蔵書検索の URL を下記に変更しました。

<http://www.opac.lib.yamaguchi-u.ac.jp>

また、次のサービスが追加となりました。

1) 所在表示の詳細化

研究室貸出資料については、旧システムでは“長期貸出中”の表示のみで、どのキャンパスに所在するか、利用者は調べられなかったのですが、新システムでは、学内から検索した場合は、学部または学科まで、所蔵場所が確認できるようになりました。



書名	記号	図書番号	所在
新刊 関西の歴史	413.857152	001157201	
工図 1 階層図	413.857152	001157202	読書中
工図 1 階層図	413.857152	001157203	岡山県(2010.4.1)

研究室所蔵図書も学科まで表示します

図2 新システムの所在表示

2) 横断検索サービス

学内の蔵書目録データベースと、国立情報学研究所の総合目録データベースを、横断的に検索することができるようになりました。総合目録データベースとは、日本最大の図書目録データベースで、全国の国公立大学図書館等の図書目録データが入力されています (書誌情報約 700 万件、所蔵情報は約 7,790 万件)。検索時に国立情報学研究所にチェックをいれると、学内ローカルデータベースにヒットしない場合、自動的に総合目録データベースを検索します。

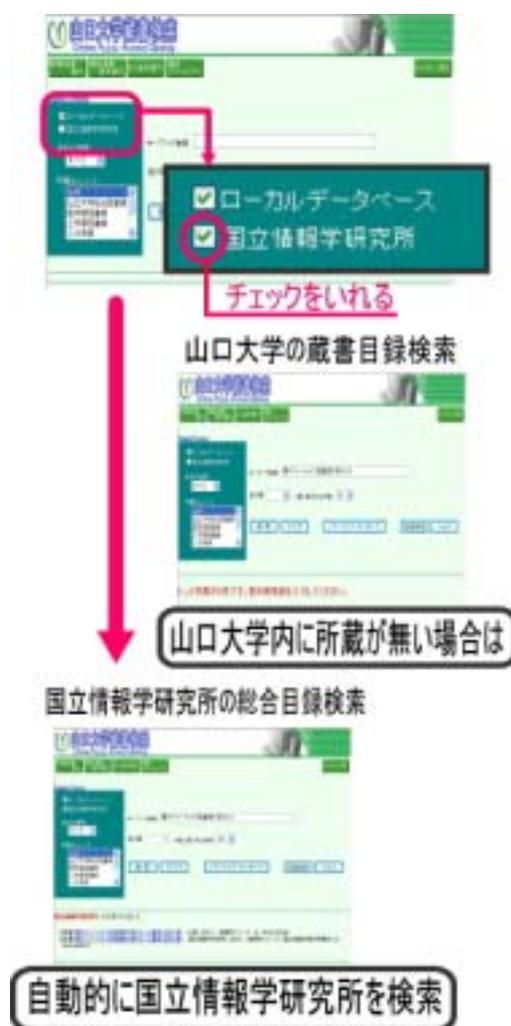


図3 横断検索サービス

3) 予約サービス

OPAC からの図書の予約サービスに、本人認証機能を追加し、本人による予約確認ができるようになりました。また、図書返却時には本人に自動的にメール連絡できるようになりました。



図 4. 図書の予約サービス

4) 検索結果情報のメール送信サービス

旧システムでは、検索結果の保存方法は、Web ページをそのままの形で保存、もしくは、プリントアウトするのみでしたが、新システムでは、メール本文に検索結果を挿入して、任意のアドレスに送信する機能を追加しました（認証が必要になります）。

5) 携帯電話対応 OPAC

携帯電話用の蔵書検索システムを新規に導入しました。PC 用同様に予約も可能です。

<http://opac.lib.yamaguchi-u.ac.jp/iopac/>

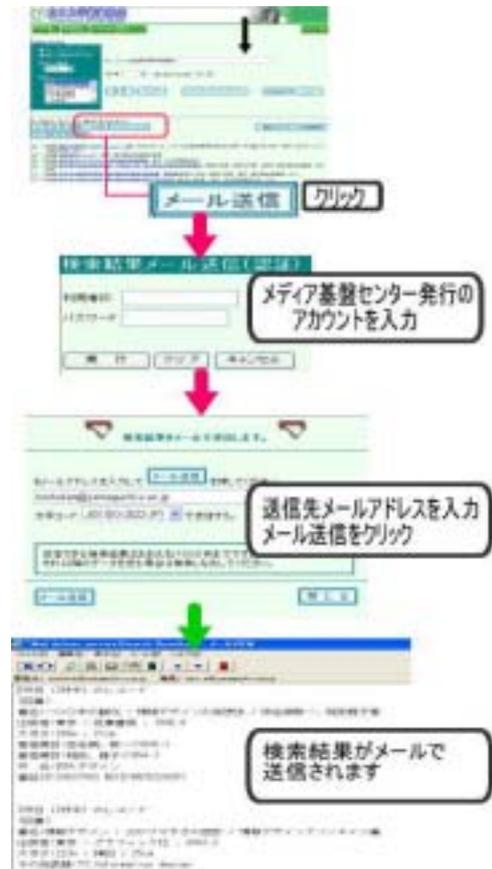


図 5. 検索結果情報のメール送信サービス



図 6. 携帯電話用 OPAC

「第53回中国・四国地区大学図書館協議会総会」及び

「第32回国立大学図書館協会中国・四国地区協会総会」報告

平成17年4月21日、22日両日、山口大学図書館の当番で、山口市内のホテルに於いて標記会議が開催された。

この会議は地区協議会当番館の主催で毎年行われるもので、初日は、中国・四国地区大学図書館協議会総会に国公立大学図書館54大学から94名の参加があり、加藤本学学長の挨拶の後全体会議、館長会議、職務別会議が開催された。

全体を通じての主な会議内容は、国公立大学共通の問題として直面している厳しい予算状況の中、学術情報基盤資料整備のための予算確保方策について、また、図書館職員の専門性確保と、多様化した図書館業務へ対応するため国公立大学の壁を越えた研修の在り方等が協議された。

2日目は、国立大学地区協会総会に11大学から29名の参加があり、9つの議題で協議があった。主な内容として、初日の学術情報基盤

資料整備の予算確保方策と関連して、経費節減の一環としてデータベース共同利用に関する地域コンソシアムの立ち上げ、人事配置の固定化を是正するため地区内図書館の人事交流の在り方、国立情報学研究所が提供している「NACSIS-CAT/ILL」システムの業者外注による目録の精度問題や相互貸借のサービスステータスの運用、複写料金の設定等システムに関わる各種課題、国立大学図書館協会の新企画である管理者のためのマネージメント・セミナーや新人のためのフレッシュマン・パーソン・セミナーについて等々、会議時間を大幅に上回って活発な意見交換が行われた。

本会議は、地区の国公立大学図書館の館長をはじめ、図書館の管理運営に携わる幹部職員が一同に会して行うもので、近年の大学の財政事情を鑑み白熱した会議と共に、各大学の本音の情報交換の場としても意義ある会議であった。

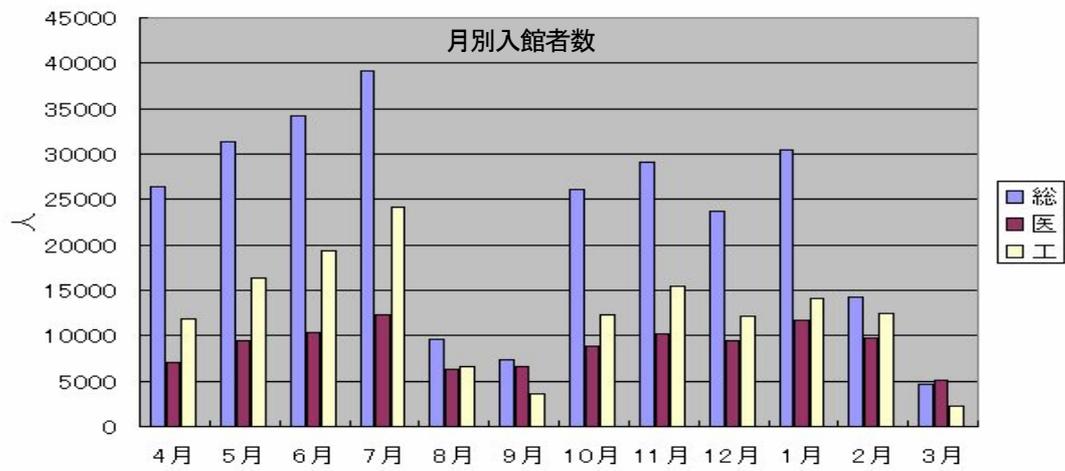


写真1 加藤学長挨拶

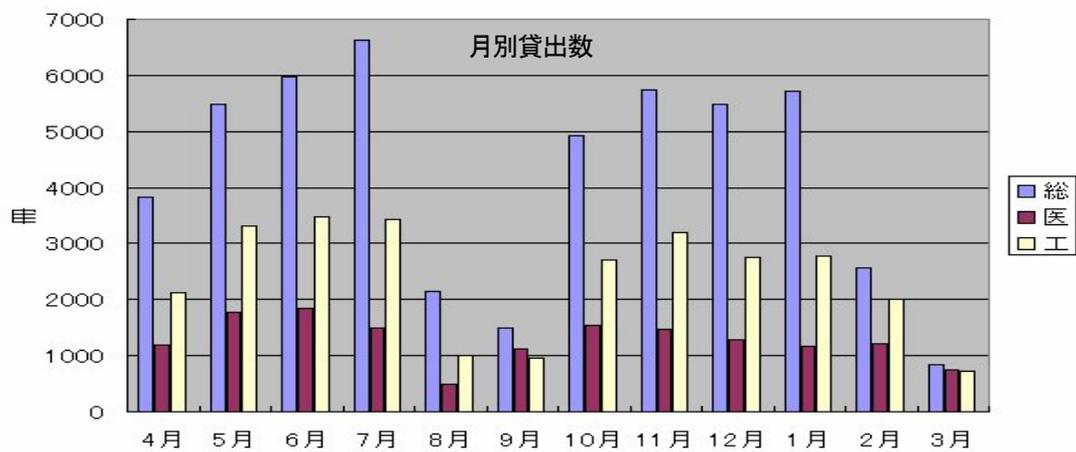
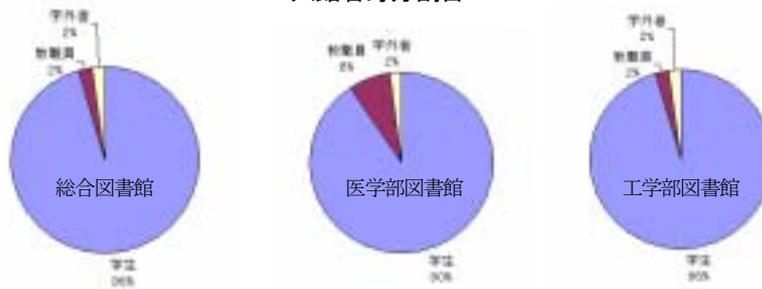


写真2 会議情景

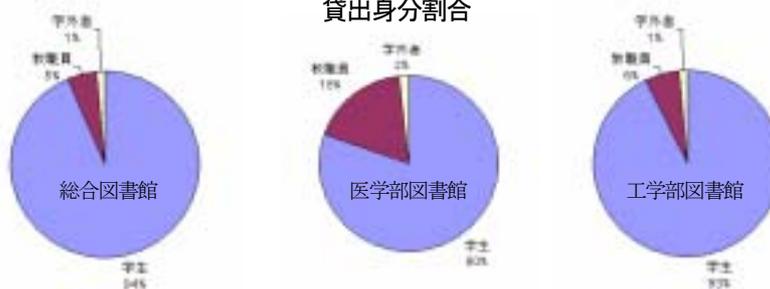
平成 16 年度閲覧統計



入館者身分割合



貸出身分割合



トピックス

●新入生オリエンテーション

平成17年4月4日から8日までの5日間の日程で、総合図書館において、新入生オリエンテーションを行いました。実施回数は23回、各回は45分間で、はじめにメディア基盤センターによるネットワーク利用の注意点についての説明があり、その後20名ほどのグループに分かれて、館内を案内しながら、蔵書検索・貸出・返却・入退館ゲート・情報ラウンジなど、各館内施設および資料の利用方法についての説明を行いました。総参加者数は1908人で、参加率は95%でした。



新入生オリエンテーション(総合図書館)

●Scopus 講習会

平成17年5月17日、吉田・常盤・小串キャンパスの3会場において、エルゼビア社に講師を派遣していただき、学術情報ナビゲーションサービス「Scopus」の講習会を開催しました。



Scopus 講習会(総合図書館)

「Scopus」は、14000誌以上のジャーナルの目次情報、2700万件以上の抄録を収録し、1996年以降の論文については参考文献も搭載、その他、ウェブ情報、特許情報をも横断的に検索することが可能で、さらに強力な引用論文の検索機能、フルテキスト・リンクをも備えた、世界最大の二次情報データベースです。当日は90分間にわたる具体的な利用方法の説明があり、参加者は77名でした。

●文献検索講習会(工学部)

平成17年5月30日から6月3日までの5日間、工学部図書館において、文献検索講習会を実施しました。120分1コースで9回、参加者数は計61名でした。対象は4年生以上程度で、内容としては、参考文献の見方、蔵書検索方法、オンラインジャーナル検索方法、JDream利用方法、Inside Web利用方法について、実習をまじえながら、説明しました。詳細については下記をごらんください。

<http://donald.lib-e.yamaguchi-u.ac.jp/Bunken05/>



文献検索講習会(工学部図書館)

●Web of Science 講習会

平成17年6月10日、吉田・常盤・小串の3キャンパスにおいて、トムソンサイエンティフィックより講師を招き、学術文献・引用索引データベース「Web of Science」の講習会を開催しました。

「Web of Science」は、主要な8800タイトルの学術雑誌について、掲載されているすべての論文の書誌情報と、各論文の引用文献を収録し、キーワードと引用情報の両方をもとに関係論文を網羅的

に検索することが出来る世界最大規模のデータベースで、本学ではその中から自然科学系データベース“Science Citation Index Expanded”を導入しています。当日は90分間にわたる具体的な利用方法の説明があり、参加者は53名でした。



Web of Science 講習会(工学部図書館)

(2)管理機能付プリンタを設置しました
各図書館の情報ラウンジに、カラープリンタ、白黒プリンタ各1台を設置しました。情報ラウンジのほか、情報コンセントからも印刷できます。なお、現在のところ、プリントアウトの枚数に制限があります。



情報ラウンジ(工学部図書館)

●情報ラウンジの機器更新

平成17年4月に、情報ラウンジの機器を更新しました。

(1)情報ラウンジPCを更新しました

Windows XP, VineLinux のデュアルブート構成で、Microsoft Office 2003, Mathematica がインストール済みです。

本学関係教官著作物寄贈図書

寄贈者	書名
梶 辺 昭 二	常盤台今昔：山口大学工学部創立65年記念／梶返昭二編著
太 田 聡	音韻理論ハンドブック／太田聡執筆
城 下 賢 吾	入門証券論 新版 / 城下賢吾ほか著
山 本 哲 朗	防災授業；僕たち自然災害を学び隊！／山本哲朗著

編集後記

巻頭では新しく工学部図書館担当となられた福永副館長から「変遷する図書館像」という原稿をいただいた。また図書館システムも平成17年4月にリプレイスしたため、新しいサービスについて大きく紙面をさいた。

そういう意味で今号は「改新」特集号ともいえるだろう。

データベースやシステムだけでなく我々のサービスへの意識も常に改新していかなければならない。(0)

山口大学図書館報 「Library News」
No.71 2005年7月1日発行
<http://www.lib.yamaguchi-u.ac.jp/>

編集・発行 山口大学図書館
〒753-8516 山口市大字吉田1677-1
TEL. (083)-933-5183 FAX. (083)-933-5186